

# 令和5年度 玉名市社協ワークキャンプ事業実施要項

## 1. 趣旨

「明日の福祉社会」を担う子どもたちや福祉に関心をお持ちの方々に対し、社会福祉施設での利用者との交流や地域の方等、様々な体験学習を通じて社会福祉への理解と関心を深め、ボランティア活動に参加するきっかけづくりや地域とのつながりを高めることを目的とします。

## 2. 主催

社会福祉法人 玉名市社会福祉協議会（玉名市ボランティアセンター）

## 3. 協力

- 日本赤十字社熊本支部
- 社会福祉法人 天恵会 有明ホーム
- 社会福祉法人 玉医会 たまきな荘
- 社会福祉法人 浩風会 岱山苑
- 社会福祉法人 若葉会 WAKABA
- 玉名市社会福祉協議会 たまっ子らんど

## 4. 参加申込

参加希望者は、チラシのQRコードからの申込か参加申込書に参加者氏名、住所、参加したいプログラムなど必要事項を記入の上、指定期日までに、玉名市社会福祉協議会玉名支所（本所）又は各支所にお申込下さい。申込の受け付けは先着順となります。

ただし、日曜日の受け付けは行っておりません。また、土曜日（9：00～16：00）は、玉名市社協（本所）のみでの対応となります。

受付開始は令和5年7月3日（月）～となります。

締切は各プログラムで異なりますのでご注意ください。

## 5. その他の注意事項

□開催会場までの移動は各自で対応ください。

□活動ができる服装で参加してください。（運動靴着用のこと）

□参加出来なくなった時は、事前に下記お問合せ先へご連絡下さい。

□活動中の事故等については、「ボランティア行事用保険（A1プラン）」での対応となります。

□携行品は、参加者側で自己管理して下さい。

## 6. ワークキャンプに関するお問合せ・お申込先

玉名市社協ボランティアセンター（玉名市岩崎88-4 玉名市福祉センター内）

TEL：0968-71-0080 担当：穴井

※お申し込みは最寄りの各支所でも受け付けます。

岱明支所（玉名市岱明町中土980-1 岱明防災コミュニティセンター内）

横島支所（玉名市横島町横島3923 横島総合保健福祉センター内）

天水支所（玉名市天水町小天7237-1 天水市民センター内）

# ワークキャンプの こころがまえ

## 1. 施設利用者の方々とのコミュニケーション

活動の第一歩は、施設利用者の方々とお話することです。まずは、明るくあいさつを交わすことから始めましょう。

その後、スキンシップなどを通じてコミュニケーションがとれる状況を作り、自分の身近な出来事の話をしたり、施設利用者の方々の思い出などのお話も聞かせてもらいましょう。また、人と親しくなるためには、まず相手の名前を覚えて、話しかけてみましょう。

## 2. 活動にけじめを付けましょう

施設の方々も大切な時間を使って指導して下さいます。迷惑になる行為はつつしみ、時間を有効に使いましょう。

何をすればいいかわからない時は、施設の方に「何かお手伝いすることはありますか？」と尋ねてみましょう。

## 3. 無理はしないこと

「自分にはどうしてもできない」「無理だな」と思ったら施設の方がワークキャンプの担当者に相談しましょう。

うまくできる方法や違う仕事を指導してくれるはずです。

## 4. 勇気を出して行動しましょう

チャレンジする気持ちも大切です。施設で体験学習する機会は、一生の内でこれが最後のチャンスになるかもしれません。「はずかしい」という気持ちに「せっかく参加したのだから」という気持ちに変えてみましょう。

## 5. プライバシーの保護

施設を利用されている方は、自分の体の状態など人に知られたくないことがあります。ワークキャンプが終わっても、参加中に知った利用者のことは、学校や家庭、友人に話したりしないで下さい。

### も 持ってくるもの

- 筆記用具（鉛筆、消しゴム、ノートなどのメモできるもの）
- 動きやすい服装（体育服やトレーニングシャツ・パンツが望ましい）
- 体育館シューズ（上履き）  帽子  着替え  タオル
- 昼食（小学生ワークキャンプは不要）  水筒

# ワークキャンプの こころがまえ

## 1. 施設利用者の方々とのコミュニケーション

活動の一步は、施設利用者の方々とお話する事です。まずは、明るくあいさつを交わすことから始めましょう。

その後、スキンシップなどを通じてコミュニケーションがとれる状況を作り、自分の身近な出来事の話をしたり、施設利用者の方々の思い出などのお話も聞かせてもらいましょう。また、人と親しくなるためには、まず相手の名前を覚えて、話しかけてみましょう。

## 2. 活動にけじめを付けましょう

施設の方々も大切な時間を使って指導して下さいます。迷惑になる行為はつつしみ、時間を有効に使いましょう。

何をすればいいかわからない時は、施設の方に「何かお手伝いすることはありますか？」と尋ねてみましょう。

## 3. 無理はしないこと

「自分にはどうしてもできない」「無理だな」と思ったら施設の方かワークキャンプの担当者に相談しましょう。

うまくできる方法や違う仕事を指導してくれるはずです。

## 4. 勇気を出して行動しましょう

チャレンジする気持ちも大切です。施設で体験学習する機会は、一生の内でこれが最後のチャンスになるかもしれません。「はずかしい」という気持ちを「せっかく参加したのだから」という気持ちに変えてみましょう。

## 5. プライバシーの保護

施設を利用されている方々は、自分の体の状態など人に知られたくないことがあります。ワークキャンプが終わっても、参加中に知った利用者のことは、学校や家庭、友人に話したりしないで下さい。

持ってくるもの

- 筆記用具（鉛筆、消しゴム、ノートなどのメモできるもの）
- 動きやすい服装（体育服やトレーニングシャツ・パンツが望ましい）
- 体育館シューズ（上履き）    帽子    着替え    タオル
- 昼食（小学生ワークキャンプは不要）    水筒